

雑木林通信 2021. 4. 27 160号

今年も咲いてるでしょうか？

雑木林のようすを見ると、季節が早く進んでいることがわかります。桜の開花、芽吹きから新緑へと例年より2週間ほど早く、今は新緑の季節の中にいます。初夏を思わせる風も吹いてきています。

若葉あられる雑木林は、さわやかで風が来れば「みどりのそよ風」の歌がぴったりです。

また林の中を歩いて、見上げると新緑の枝葉が広がっていて、まるで新緑の海の底を歩いている気分になります。

木々の根元やまだ下草が伸びあがる前の草地に出て、雑木林ならではの花を探してみたくになります。

たとえば、キンラン(金欄)が咲いているでしょうか。

去年はシイタケ柵のまわり、ハンモック近くのクヌギの近く、畑の土手、南斜面など、ところどころに咲いていました。数輪の黄色い花、背丈30~40cm、離れていても目につきます。



昨年、シイタケ柵の近くに咲いていたキンラン

見つけるとそのめずらしさにうれしくなりますが、「むかしは、あっちこちに咲いていたもんだよ…」と古くから小山に暮らす方が話していました。とても少なくなったのです。

キンランはラン科の多年草(毎年、根茎などから発芽する)で、根に付く菌と共生しています。移植すると菌が死に共生できなくなり枯れてしまいます。園芸種にはなりません。一時、持ち帰る人が多かったことや開発により広く表土をはがされるなど、不運が重なりキンランを見かけなくなってしまったのです。

しかし自然保護のため一本でも咲いていると、表示がつけられ守られるようになりました。学校近くの小山内裏公園散策路の道端でも見かけるようになり

親しまれています。

ところでキンランと姿かたちが似ていて、白い花が咲くギンラン(銀欄)があります。中央小の雑木林では、ギンランより背が低いササバギンラン(笹葉銀欄)を見かけます。去年はシイタケ柵の近くやヒサカキの林縁に咲いていました。

ギンランはキンランと同じくらいの背丈で、キンラン同様、見かけることが少ない花となりました。原因は、キンランと同じです。

小山ヶ丘小学校の近く三ッ目山公園の斜面にはキンラン、ギンランが保護されていて、昨年クヌギの木の根元に立派なギンランを見ることが出来ました。



昨年、三ッ目山公園で見つけたギンラン。

キンランやギンランは移植ができないため自然の発芽を待つしかありません。それには豊かな土壌が必要でキンランなどは「自然環境の豊かさの指標」植物(「里山さんぽ図鑑」成美堂)とされています。

もう一つ雑木林の春の花、ヒトリシズカ(一人静)が咲いていないでしょうか。一度見つけたら、忘れない春の花となるのではと思い、紹介します。

ヒトリシズカは地中の根茎から発芽します。背丈は 15 cmほどで一草に一本

白いフラスコのような花をつけ10本近くまとまって発芽する多年草です



畑の近くの土手に咲いていたヒトリシズカ

名の由来は、花のようすが鎌倉の静御前の舞姿を連想させるとのことから、伝えられています。

去年は畑の周辺、特に土手に他の草花のなかで見つけることが出来ました。

今年は季節が早く進んできたので、もう成長しあたりの草にかくれ、見分

けがつかなくなっているかもしれませんが…。